



2018年度 二次分析研究会課題公募型 研究成果報告会

災害復興に関する被災者調査データの 質的分析高度化の検討 —KJ法が縮約する仮設住宅期の被災者像の多面性—

■ 日時/場所

2019年3月27日(水) 14:00 — 17:00
東京大学(本郷キャンパス) 赤門総合研究棟5階 センター作業室

■ プログラム

■ 開会の挨拶 14:00 小林秀行(明治大学)

■ 第1部 14:05-16:30

司会: 小林秀行(明治大学)

1. 「災害復興の起点となる立場としての『個』・『共』・『放棄』」 小林秀行(明治大学)
コメンター: 宮定章(認定NPO法人 まち・コミュニケーション)
2. 「復興における「時間」をめぐる住民証言から見る
コミュニケーション課題—女川町の事例から—」 中島みゆき(東京大学)
コメンター: 宮定章(認定NPO法人 まち・コミュニケーション)
3. 「東日本大震災発生2年におけるよう配慮者の支援ニーズ」 重松貴子(東京大学)
コメンター: 天野和彦(福島大学つくしまふくしま未来支援センター)
4. 「被災住民による自他の分節に基づく「被災者」「被災地」の構造化」 山崎真帆(一橋大学)
コメンター: 中西紹一((有)プラス・サーキュレーション・ジャパン)
5. 「仮設住宅居住者の声を誰に届けるのか?」 佐藤慶一(専修大学)
コメンター: 中西紹一((有)プラス・サーキュレーション・ジャパン)

■ 第2部 16:30-16:55

総合討論 司会: 佐藤香(東京大学)

『「時間と距離を隔てて捉えなおす方法」としての二次分析の可能性と課題』

■ 閉会の挨拶 16:55 田中淳(東京大学)